

野守まつりを盛り上げ、未来につなげたい

長い歴史を持つ野守まつり。西村さんは、祭りのメインイベントである和船漕ぎ大会の審判長を22年間務めるとともに、日本へら鮒釣研究会野守支部の会長も務め、「野守の池」の水辺環境を守っています。

【大会の始まり】

毎年8月15日に開催される野守まつり。和船漕ぎ大会は、2人1組で175m先のゴールを目指して和船で進み、タイムを競う白熱のレースです。釣り好きの西村さんは、池の環境を守る傍ら、有効活用できないかと考えていました。

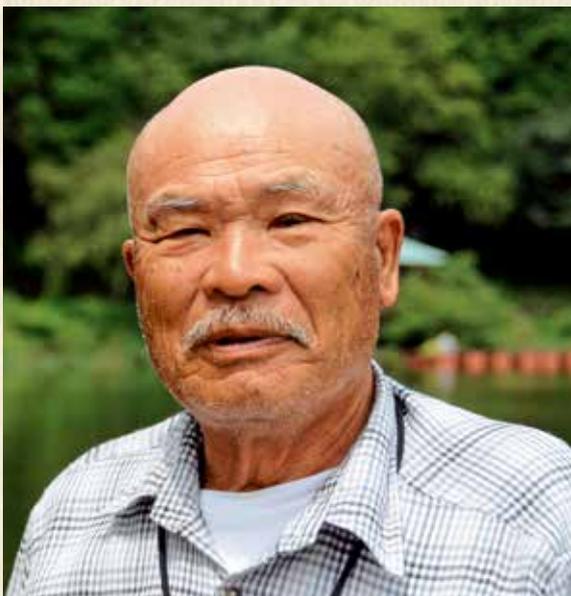


「せっかく池でお祭りをやるんだから、何か賑やかなイベントが出来ないかな、と思ってた」小学2年生の頃から野守の池で釣りをしていたという西村さんは、遊びながら親しんだ和船の活用を思いつきました。

「和船は、へら鮒釣りに使用す

るものを参考に、私と大工である兄、そして長男と次男で協力して、10艘を手作りしました。オールも、4人で試行錯誤して自作。23年前に作ったこの舟は、今も競技で使われ続けていますよ」

「ないよう、救命胴衣の着用や、飲酒しているチームの排除などに、厳しく目を配っています。今まで一度も事故はありませんが、これからの無事に競技が続いていくことを望んでいます」



野守まつり 和船漕ぎ大会審判長  
西村幸男さん (川根町家山)

【審判長の使命】

審判長として、大会を見守ってきた西村さん。審判には、大事な使命があると自負しています。

「祭りの一行事とはいっても、水上の競技。事故になら

【競技の魅力】

初めは参加者を集めるのに苦労した和船漕ぎ大会も、今では50以上のチームが参加する一大イベントに。応援するたくさんの人で、池の周囲や棧橋までもが賑わいます。

「ぐるぐる回ってしまったり、ゴールとは全く違う方向へ進んでしまったり。個人の力はあっても、漕ぎ手2人の息が合わないとなかなかうまくいかないところが、見て面白いですね。祭りといえど、競争となるとみんな一生懸命だから、見応えがあります。まだ見たことがない人は、ぜひ一度見に来てほしいですね」と西村さんは子どもの成長を喜ぶように、笑顔で話します。

「22年もやっているけど、中学生の部に出ている子が一般の部に出るまで成長して、気付いたら子どもと一緒に出てくれています。時の流れを感じ、感慨深くなります。苦労したこともありませんが、皆さんが楽しんでるのを見ると、やってきてよかったと思えます。これからは若い世代に引き継いで、元気に競技を続けていってほしい。野守の池を、さらに賑やかにしてもらえたら、うれしいですね」

湖面が激しく波打つ祭りの日を心待ちに、西村さんは、今日も静かに佇む野守の池に、釣り糸を垂らします。



和船漕ぎ大会は8月15日(水) 午前9時から

Shimadajin File #83

島田 Story 人